

[科目名] 情報リテラシー I				[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン ベーシクス		
[担当者] 深田 秀実 FUKADA, hidemi		[オフィス・アワー] 時間: 初回授業の際にお知らせします 場所: 618 研究室			[授業の方法] 講義と実習		
[科目の概要] 近年、スマートフォンをはじめとするモバイル機器や SNS などの普及により、大量のデータが日々生み出され、流通し、蓄積されている。また、コンビニエンスストア等のレジ端末や銀行の ATM など、我々の生活には情報通信技術 (ICT) が使われている。 一方で、従来、大学での授業や卒業後の会社などでコンピュータを利活用するためには、ユーザが能動的にコンピュータ上で情報を「蓄積・加工・分析」することが求められる。具体的には、ワードプロセッサ・表計算・プレゼンテーション・コミュニケーションツールなどのアプリケーションを利用する技術 (スキル) を身につけた上で、それらを知的活動の道具として使いこなせることが必要となる。 そこで、本講義では、コンピュータやインターネットに関する基礎知識、及びアプリケーション等の利用スキルを習得していく。毎回の授業では、その日に学ぶべきテーマを設定し、そのテーマに沿って、進行していく。また、本講義の授業方法は反転授業形式で行うため、毎回の授業は履修学生が事前学習を行ってきたことを前提として進める。 従って、この授業を履修する上で最も重要なことは、学生各々があらかじめ提示されたテキストの範囲や資料等を自ら事前に学習し、授業に備えることである。これにより、自ら学ぶ姿勢や独習する習慣を身につける。 なお、本シラバスの内容と各回の授業 (特に初回のイントロダクション) 等で説明した内容に相違がある場合は、シラバスの内容より授業で説明した内容のほうが優先される。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] この授業では今後履修する専門科目や卒業後の実社会で直面するようなテーマを学ぶ。また、コンピュータ上のアプリケーションのいくつかを利用して実践的なスキルを身につける。同時に「コンピュータを道具として使うこと」の理解を深め、専門科目での学習や実社会での活動に活かすための基礎を身につけることができる。							
[科目の到達目標] 1. メディアから流れてくる情報を鵜呑みにすることなく批判的に捉え、情報を主体的に読み取ることができる。 2. コンピュータのアプリケーション等を用いて、分かりやすい文書を作成する等、目的に適った表現ができる。 3. 人工知能やビッグデータによって社会で起きている変化を理解し、データ・AI の利活用について説明できる。							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 本授業の担当教員は新任のため、本学の学生による授業評価はまだ無いが、前任の大学における履修学生からの評価を鑑み、授業での話すスピードや声の音量に関して、履修学生が聞き取りやすい説明を心がけます。							
[教科書] 基礎から学ぶ ICT リテラシー 第 3 版 (デジタル版), 日経 BP 社. 日経パソコン Edu, 及び 教員が提示する資料							
[指定図書] 必要なときに提示する							
[参考書] 情報倫理ハンドブック ほか, 必要なときに提示する							

〔前提科目〕	
なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
<p>課題研究でのアクティビティ, 課題研究レポート, CAL のアクティビティ, CAT の成績, 小テストの点数を総合して評価する. 評価の基準は学生便覧に準ずる. スケールは以下のとおりとする.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究でのアクティビティ : 10% (Web フォーム等からの完了報告やコメント等) ・課題研究レポート : 30% (1 週間後の締め切り日までに, 着実に提出しているか等) ・CAL のアクティビティ : 20% (少しずつ計画的に進めているか等) ・CAT : 30% (第 1 回 CAT を除く) ・小テスト : 10% (知識が定着しているか) 	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義を受講する学生は第 1 回目の授業に出席して下さい. 授業の目的や成績評価について説明します. ・講義の終わりに質問を受け付ける時間を設ける予定なので, 不明な点は積極的に質問して下さい. 	
〔実務経歴〕	
<p>実務経験がある. (本授業の担当教員は, 情報システムや情報セキュリティに関する実務経験がある. 具体的には建設省土木研究所(現 国立研究開発法人 土木研究所)勤務時にメインフレームを用いたプログラム開発の経験がある. また, 地方自治体(情報システム部門)勤務時は, 行政情報システムの運用管理, 情報セキュリティに係るインシデント対応, コンピュータ・ネットワークの運用管理等を担当していた.)</p>	
授業スケジュール	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション</p> <p>内 容: Google Classroom, Google Document の概要, 本学のポータルサイトとメールシステム, 教材コンテンツの使い方, 次回の講義に向けた課題(事前学習)などの説明を行う.</p> <p>教科書: 配布資料など</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): コンピュータの仕組み</p> <p>内 容: コンピュータの構成要素, Operating System (OS), ファイルの仕組みなどに関して学ぶ.</p> <p>第 1 回 CAT の実施 (CAL のためのプレースメントテスト).</p> <p>教科書: 第 1 章 1-1 と 1-2, 日経 Edu コンテンツ, 配付資料</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): インターネット(1)</p> <p>内 容: コンピュータ・ネットワークの階層構造やインターネットの仕組みを学ぶ.</p> <p>加えて, Web ページを構成する HTML に関して, その概要を学ぶ.</p> <p>教科書: 第 2 章 2-1 と 2-2, 日経 Edu コンテンツ, 配付資料</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): インターネット(2)</p> <p>内 容: コミュニケーションツールの特性を踏まえた利用方法, メールのマナーや作法を学ぶ.</p> <p>また, クラウドサービスについて学ぶ.</p> <p>教科書: 第 2 章 2-3 と 2-4, 情報倫理ハンドブック, 日経 Edu コンテンツ</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報セキュリティ</p> <p>内 容: マルウェアの概要やネット詐欺の様態について学び, 被害に遭わないための望ましい行動を身につける.</p> <p>教科書: 第 3 章, 日経 Edu コンテンツ, 情報倫理ハンドブック</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): メディアリテラシー</p> <p>内 容: AI 技術の発展と偽情報などを学び, 情報発信の社会的責任について考える.</p> <p>教科書: 第 4 章, 日経 Edu コンテンツ, 情報倫理ハンドブック</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):著作権</p> <p>内 容: 著作権の基礎知識と著作物の正しい利用法について学ぶ.</p> <p>教科書: 第5章, 日経 Edu コンテンツ, 情報倫理ハンドブック</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):電子メールのマナー</p> <p>内 容: ビジネスメールの作法を学び, スキルを身につける.</p> <p>第2回 CAT の実施.</p> <p>教科書:基礎から学ぶ ICTリテラシー 第2版(デジタル版) 第4章 4-4</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):人工知能(AI)による社会の変化</p> <p>内 容:データ駆動型社会と Society 5.0, 及び人工知能(AI:Artificial Intelligence)の種類や AI 技術の概要を学習する. また, 社会で活用されているデータ(調査データ, 人の行動ログデータ等)やビッグデータ, オープンデータに関する概要を学習する.</p> <p>教科書:第6章 6-1と6-2, 日経 Edu コンテンツ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会における AI・データの利活用</p> <p>内 容:AI を活用した技術が産業界で積極的に活用されて始めている. 第10回は, 大規模言語モデルや生成 AI の具体的な用途の事例を学ぶ. また, データと生成 AI の活用領域の広がりを知るため, 製造業やサービス業等でのように AI が活用されているかを学ぶ.</p> <p>教科書:第6章 6-3と6-4, 日経 Edu コンテンツ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):データリテラシー(1)</p> <p>内 容:データ分析の基本を学習する. 具体的には, データの種類, データの分布(ヒストグラム)と代表値, データのばらつき, データ間の相関, 相関関係と因果関係に関して学ぶ.</p> <p>教科書:第7章 7-1と7-2, 日経 Edu コンテンツ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):データリテラシー(2)</p> <p>内 容:データを可視化することの意義と留意点を学習する. 具体的には, 棒グラフ, 折線グラフなどのデータ表現を学ぶ. また, Excel を用いてデータの集計や相関係数等を求める.</p> <p>教科書:第7章 7-3と7-4, 日経 Edu コンテンツ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):AI とデータ利用のリスク</p> <p>内 容: AI やデータを利用する際の留意事項(倫理的・社会的課題(ELSI), データ倫理)に関して学ぶ. また, 個人情報保護の考え方, 忘れられる権利などについて学ぶ.</p> <p>教科書: 第8章 8-1と8-2, 日経 Edu コンテンツ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):プログラムとアルゴリズム</p> <p>内 容:プログラムとアルゴリズムの基本的な例を通してプログラミングの考え方を学ぶ.</p> <p>また, 代表的なプログラミング言語の特徴を学ぶ.</p> <p>教科書:第9章 9-1, 日経 Edu コンテンツ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめと展望</p> <p>内 容:第2回～第14回までの授業内容を振り返る. また, 今後, 人工知能が進化していくことで現在の情報社会がどのように発展していくのか, その望ましい近未来社会について, 学生諸君と議論したい.</p> <p>教科書:基礎から学ぶ ICTリテラシー 第3版(デジタル版), 日経 Edu コンテンツ</p>
試験	<p>期末試験期間中の期末試験は行わず, 上述の「評価の方法」により成績を評価する.</p>